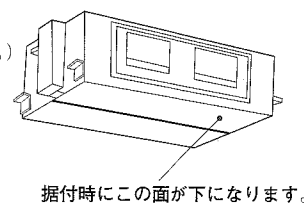
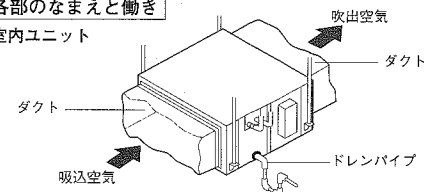
セゾンマルチシリーズ　据付説明書

FDUP　452LX～2802LX

PJD012D010

適用機種	45, 56, 71, 90, 112, 140, 224, 280

本機は制御箱内に内蔵のファンコントローラのボリュームにより連続的に風量を調節することができます。
使用ポイントが下記に示す風量限界内に入るよう調節をしてください。(ファンコントローラの操作要領は下面にあります。)
本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
電気工事の方法は、室内ユニット付属の**電気配線工事説明書**をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

リモコンは別売です。

各部のなまえと働き

備考：室内ユニットは天井壁等に据え付けられ、冷(温)風はダクト(風を送る道)を通り送られます。

〈お願い事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

① 据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

① **ドレン関係**

1	ホースクランプ		1個	ドレン配管用

② **フレアナット部断熱用**（45～140のみ）

1	パイプカバー(大)		1個	ガス側用
2	パイプカバー(小)		1個	液側用
3	バンド		4個	

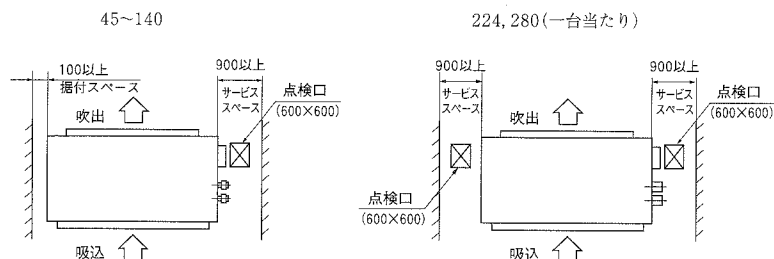
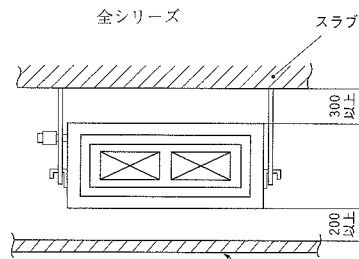
※お知らせ　224, 280には、1～3は付属しておりません。（ろう付接続のため）

付属品収納場所（梱包時）

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

② 室内ユニットの据付場所の選定

(室内機)

据付＆サービススペース（ここに示す据付＆サービススペース、空気条件、風量限界は必ず守ってください。）

（側面サービス）

（側面、下面サービス共）

1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 ●冷風または温風が十分行きわたる所。
 据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
 ●室外への配管、配線のしやすい所。
 ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
 （高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ての配管、ドレン配管にさらに10mm～20mmの断熱材を取り付けてください。）
2. 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

空気条件・風量限界

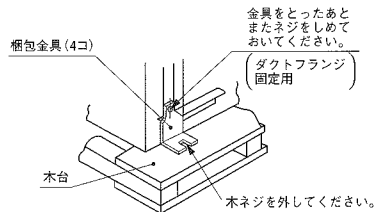
50Hz／60Hz

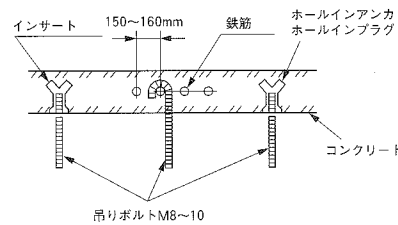
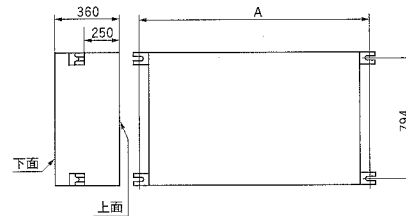
マルチシリーズ	風量 m³/min			室内ユニット吸込空気温度		室内ユニット周囲の空気温度
	定格	下限	上限	冷　房	暖　房	
45	14/16	11/13	15/17	上限26℃WB 外温35℃のとき	上限27℃DB 外温20℃WB以下	露点温度 23℃以下
56	14/16	11/13	15/17			
71	20/24	15/18	25/26	下限16℃WB 外温15℃のとき	下限10℃DB 外温－10℃WB以上	
90	20/24	15/18	25/26			
112	27/32	20/24	34/35			
140	34/40	26/30	43/44	くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。		
224	51/60	38/45	65/66			
280	68/80	51/60	87/88			

③ ユニットの搬入、据付

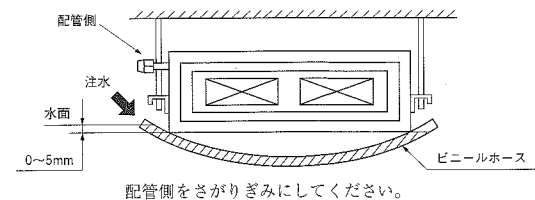
搬入

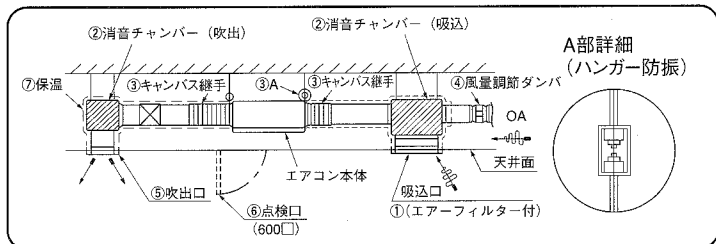
○搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
○やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。

(梱包金具について)
梱包金具（4コ）は不要ですので捨ててください。

据付

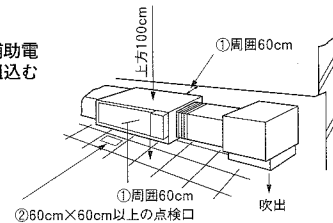
〈吊りボルト固定方法〉
下図のいずれかの方法で吊りボルトを固定してください。

〈吊りボルト位置〉

機種＼項目	A
45～112	890
140	1270
224, 280	1640

〈水平度の調整〉
水準器を使用するか、下図の要領で水平度の調整を行なってください。

配管側をさがりぎみにしてください。

水平度がでていないとフロートスイッチの誤作動あるいは不作動の原因となります。

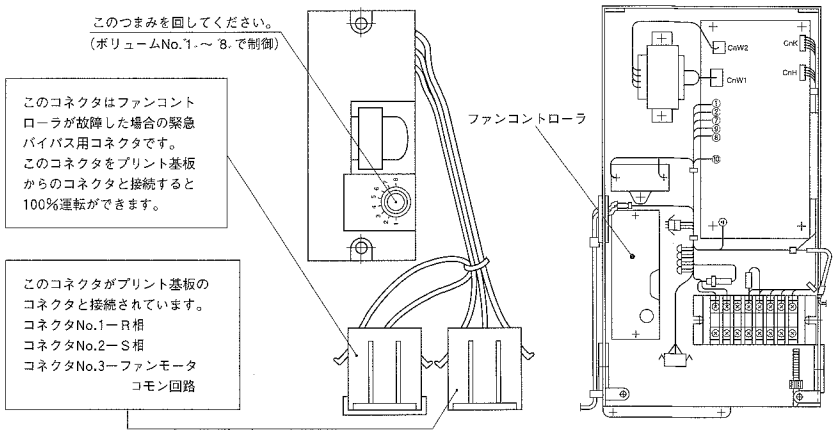
④ ダクト工事

①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
 特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風力調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。保温材の厚さは65mm(JISA9501)です。

〔重要〕
オプション補助電気ヒータを組込むときの注意

①周囲60cm
上方100cm
①周囲60cm
②60cm×60cm以上の点検口
吹出

①可燃性の部分から周囲60cm、上方にあっては100cm（1メートル）以上の距離を保つこと。
②電気ヒータが有効に点検できる位置に1辺の長さが60cm以上の大きさの点検口を設けること。

〈重要〉
オプション補助電気ヒータを組込むときはパッケージエアコンを取付ける前に「火を使用する設備等の設置届」を作成し、所轄の消防署等に届出をおこない、審査又は検査を受けること。届出書は上記①②の他に防火対象物の案内図、設置する階の平面図、立体図、構造図、室内仕様表、付属設備図などの図面が必要です。

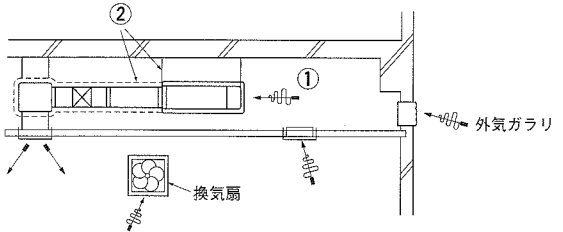
ファンコントローラ操作要領

○本機は電装品箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより、連続的に風量を調節することができます。
　ダクト側でのダンパ等による風量調節（機外静圧調整）は必要ありません。
　使用ポイントが運転可能風量範囲内となるように設定してください。（上記の風量限界を参考としてください。）
　下図にファンコントローラの電装品箱内の位置と操作のしかたを示します。
○事前に別途技術資料にて発行されている送風機特性にてファンコントローラのボリュームNOを選定してください。
　電気工事終了後の試運転に選定したボリュームNOを下図の要領に従って合わせて、所要風量がでているかご確認ください。

ファンコントローラの操作のしかた

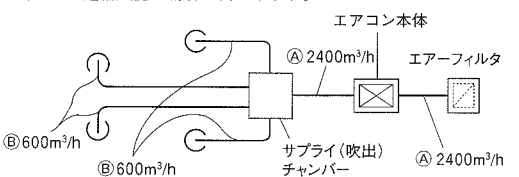
注）ファンコントローラを操作する際は、充電部に触れる恐れがあるので必ず電源を切ってください。

電装品箱での位置

（140の電装品箱を代表例としています。ファンコントローラの位置は他の機種も同様です。）

〈ダクト施工の悪い例〉

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
（イ）ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
　　ユニットは上表の空気条件及び風量限界内で使用してください。
　　コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。この場合はユニット全体をグラスウール（25mm）で保温してください。（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
（ロ）ユニットの運転限界（例：外温35℃DBのとき吸込空気温度24℃WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
（ハ）換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉

ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一辺が250mmのものを使用する場合の方法を示します。
140H、60Hz定格風量の場合を例とします。

	風　量	ダクト（mm×mm）
Ⓐ 部	2400m³/h（40m³/min）	250×560
Ⓑ 部	600m³/h（10m³/min）	250×190

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

直　管　部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲　り　部	曲り部1ヶ当り直管に直して3～4mとする
吹　出　部	25Paで計算する
チャンバー	1個で50Paで計算する
吸込グリル（フィルター付）	1個で40Paで計算する

〈簡易ダクト寸法選定図〉

1Pa/m

ダクトの形 ／ 項目 ／ 風量	角ダクト 寸法
m³/h（m³/min）	（mm×mm）
100	250×　60
200	250×　90
300	250×120
400	250×140
500	250×170
Ⓑ部 → 600（10）	250×190
800	250×230
1,000	250×270
1,200（20）	250×310
1,400	250×350
1,600	250×390
1,800（30）	250×430
2,000	250×470
Ⓐ部 → 2,400	250×560
3,000（50）	250×650
3,500	250×740
4,000	250×830
4,500	250×920
5,000	250×1000
5,500	250×1090
6,000（100）	250×1180

⑤ 冷媒配管

冷媒配管接続口径、接続方式

〈R407C機〉

45	液配管	φ6.35	フレア接続
	ガス配管	φ12.7	フレア接続
56～90	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ15.88	フレア接続
112, 140	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ19.05	フレア接続
224	液配管	φ12.7	ろう付接続
	ガス配管	φ25.4	ろう付接続
280	液配管	φ12.7	ろう付接続
	ガス配管	φ28.58	ろう付接続

〈R410A機〉

45, 56	液配管	φ6.35	フレア接続
	ガス配管	φ12.7	フレア接続
71～140	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ15.88	フレア接続
224	液配管	φ9.52	ろう付接続
	ガス配管	φ19.05	ろう付接続
280	液配管	φ9.52	ろう付接続
	ガス配管	φ22.22	ろう付接続

●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
　（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T, JIS　H3300）
●配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。曲げなおしを何回も行わないでください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
●室内機配管はサービスパネルを取り外し可能とするため、配管方向がどのような方向でも必ずユニットから400mm以上のストレート部分を設けてください。
●フレア接続、ろう付接続は以下のように行ってください。

○フレア接続

- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
　（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

フレアナット締付トルク

φ 6.35： 14～ 18(N・m),(1.4～1.8kg・m), φ 9.52： 34～ 42(N・m),(3.4～4.2kg・m)
φ12.7 ： 49～ 61(N・m),(4.9～6.1kg・m), φ15.88： 68～ 82(N・m),(6.8～8.2kg・m)
φ19.05：100～120(N・m),(10～12kg・m)

○ろう付接続

- ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。

●室内機の配管接続部は、ガス漏れチェック後、断熱を行ってください。

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

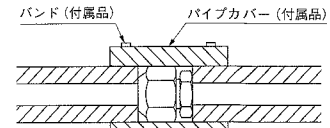
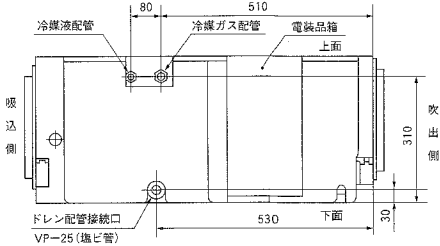
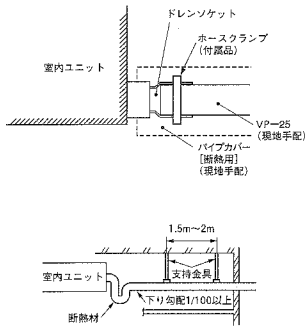
※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- フレア接続部は、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- ろう付接続部は、現地にて断熱材を手配し、断熱してください。

●冷媒は、室外ユニットに充填されています。（室内及び接続配管分の追加量については室外の説明書をご覧ください。）

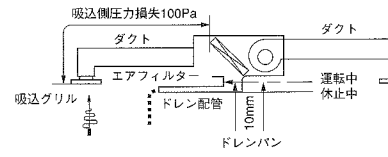
○フレア接続部の断熱

バンド（付属品）
パイプカバー（付属品）

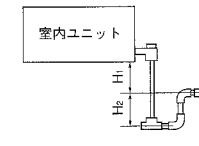
○配管位置

80
510
冷媒液配管
冷媒ガス配管
電装品箱
上面
吸込側
310
吹出側
ドレン配管接続口
VP−25（塩ビ管）
530
下面
30

⑥ ドレン配管

○ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP−25を使用してください。
○ドレン配管をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のホースクランプで確実に締付けてください。
○ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
○ドレン配管は下り勾配（1/50～1/100）とし、途中山越えを作らないようにしてください。
○複数台のドレン配管の場合、下図のように本体ドレン出口より100mm以上下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP−30以上を使用してください。
○室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。
○ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
○ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。
　室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

ご注意　ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。

例：上図の様に吸込グリル、エアーフィルター、ダクトの吸込側の圧力損失が100Paあるとすれば運転中のドレン水位は停止中に比べ10mm上昇します。

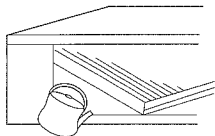
〈トラップの施工〉

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを（配管工事のとき）1箇所設けてください。
トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の様な寸法としてください。
トラップはユニットの近くに設けてください。

●ドレン配管の途中に1箇所、左図のようなトラップを設けてください。

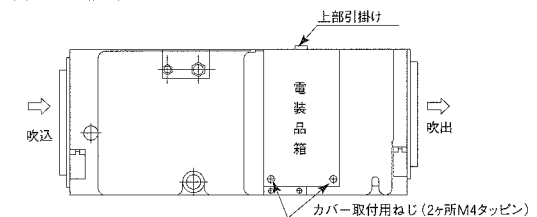
H1=100mm又は送風機の静圧
H2= $\frac{1}{2}$ H1又は50～100mm

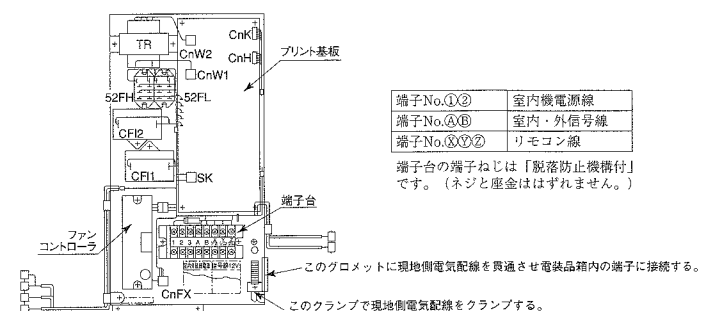
⑦ 排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。

○サイドパネルをはずし、ドレンパンに1000ccの水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。
　又、水漏れのないことをご確認ください。

⑧ 電気配線接続

電気配線工事については、室内ユニット付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
電気配線接続は下記の要領に従ってください。

（1）電装品箱位置

（2）電装品箱カバーの取外し方
　カバー下部のカバー取付用ネジ2本を外して上部の引掛けを外すとカバーは外れます。

（3）電装品箱内の端子台の配列と電気配線接続（280を代表例とします）

端子No.①②	室内機電源線
端子No.ⒶⒷ	室内・外信号線
端子No.ⓍⓎⓏ	リモコン線

端子台の端子ねじは「脱落防止機構付」です。（ネジと座金ははずれません。）

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

⚠ 警告

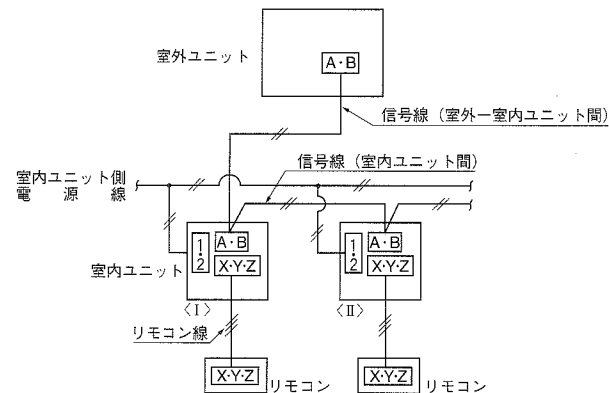
- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる２次災害が生じる恐れがあります。

⚠ 注意

- 8 mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8 mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

1）電線は銅線以外のものを使用しないでください。
2）電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
3）電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
　注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
4）同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
5）信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図 〔室外・室内ユニット接続要領〕

電源仕様

(50／60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	配線用遮断器定格電流 (A)	漏電遮断器		
		定格電流 (A)	感度電流 (mA)	動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下				
12以下	30	30		
16以下				
19以下	40	40		
22以下				
28以下	50	50	100	

配線仕様

(50／60Hz)

室内ユニット合計電流 (A)	電源用配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	信号線太さ 室外ー室内 (mm²)	信号線太さ 室内ー室内 (mm²)
7以下	2	21	0.75～2.0 ×2本	0.75～2.0 ×2本
11以下	3.5			
12以下	5.5	33		
16以下		24		
19以下		20		
22以下	8	27		
28以下		21		

注(1)配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
(2)室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なさる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
(3)配線こう長は、電圧降下を２％とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

●本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

（1）自動アドレス設定　（2）手動アドレス設定　（3）リモコンアドレス設定

上記３項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
なお、（3）リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

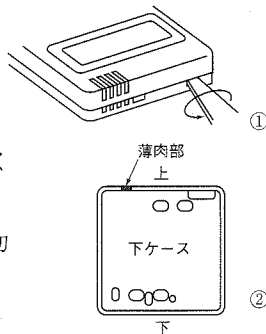
リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付　お願い　次の位置は避けてください。

1）直射日光の当たる場所　2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所　4）取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ２本で壁に取り付けます。

④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
白：205mm
赤：215mm

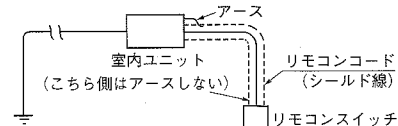
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。

リモコンコードを延長する場合の注意　▶最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×３心〔MVVS3C(京阪電線)〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

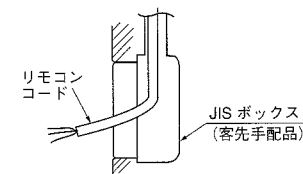
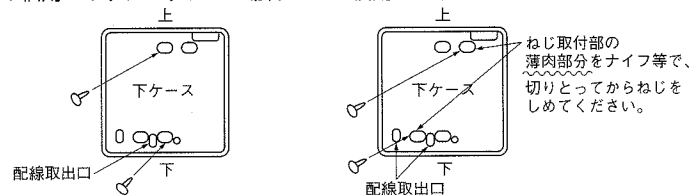
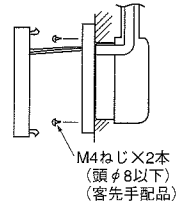
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心

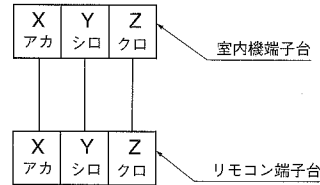
アース
室内ユニット
（こちら側はアースしない）
リモコンコード
（シールド線）
リモコンスイッチ

●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

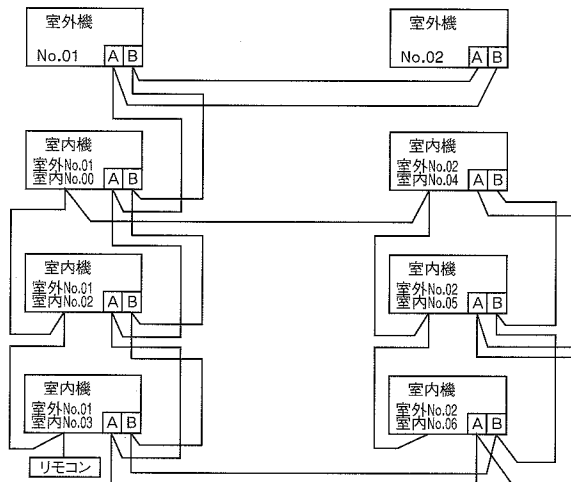
①JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。
〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336　１個用スイッチボックス
　　　　　　　２個用スイッチボックス

１個用スイッチボックスの場合

２個用スイッチボックスの場合

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM４ねじ２本（頭φ８以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。

リモコンと室内の配線

●リモコン配線は極性があります。
必ず同一端子台No.同士接続してください。

リモコン複数台制御

配線要領

●グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。（３本）
■室内ユニットリモコン用端子台ＸＹＺに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
■配線は0.5mm²以上を使用してください。（配線の引廻しに耐えるもの）
■渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
●室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
■室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
●下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
●１つのリモートコントローラで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。
■室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。

電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内機アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

機能の設定

●リモコン及び室内機の各機能は、接続される室内機により自動設定されます。
（標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。）
但し、グリル昇降設定と、特別に初期設定を変更する必要がある場合は、設定を変更してください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、ラクリーナパネルご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	
		自動運転無効	○
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	※
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	※
		風向調整禁止	
08	タイマー	タイマー有効	○
		タイマー禁止	
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○
		リモコンセンサ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ファン速調	ファン３速	※
		ファン２速	
		ファン１速	
14	冷専／ヒーポン	ヒーポン	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	エラー表示設定	エラー表示有り	○
		エラー表示無し	
17	ルーバ制御設定	ルーバ４位置停止	○
		ルーバフリー停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井１	
03	フィルターサイン設定	表示しない	
		180時間後	
		600時間後	○
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ルーバ制御設定	ルーバ４位置停止	○
		ルーバフリー停止	
05	外部入力切換	レベル入力	○
		パルス入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正＋３℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○
		停止→弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		１℃	○
10	凍結防止制御	ファン制御有効	○
		ファン制御無効	
11	電気集塵機	ファン制御無効	○
		ファン制御有効	
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動	○
		ドレンモータ連動	

注１.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

FDU

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量2，3速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量1速の機種
07	風向調整	風向調整有効	オートスイングルーバ搭載機種
		風向調整禁止	その他
13	室内ファン速調	ファン3速	室内機ファン風量3速の機種
		ファン2速	室内機ファン風量2速の機種
		ファン1速	室内機ファン風量1速の機種
14	冷専／ヒーポン	ヒーポン	ヒーポン機
		冷専	冷専機

注2.室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は作動しません。
注3.(1)のリモコン機能の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切換

□ 囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切換可能です。

SW		内容
SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転
	OFF	ドレンポンプ自動
SW5-2	ON	加湿器残留運転　有効
	OFF	加湿器残留運転　無効
SW5-3	ON	外部入力　パルス入力
	OFF	外部入力　レベル入力
SW5-4	ON	緊急停止信号　有効
	OFF	緊急停止信号　無効
SW6-1 SW6-2 SW6-3 SW6-4		機種容量設定
SW9-1 SW9-2		ラクリーナパネル降下長設定
SW9-4	ON	ファン制御　高速（高天井）
	OFF	ファン制御　標準

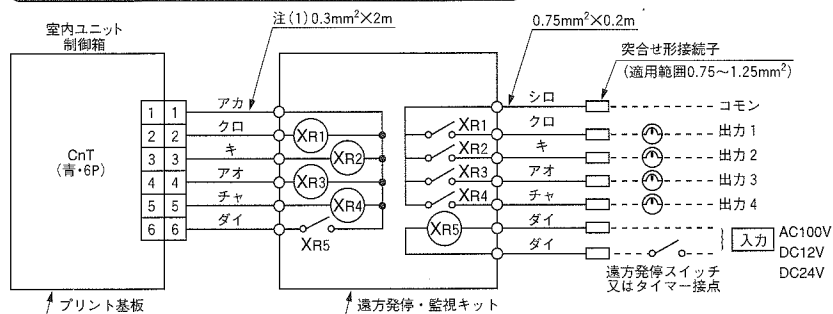
J		内容
J1	短絡	フィルタサイン有効
	開放	フィルタサイン無効
J2	短絡	運転制御標準
	開放	運転許可禁止
J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による
	開放	暖房サーモOFF時停止
J4	短絡	暖房サーモOFF時Lo風量運転
	開放	暖房サーモOFF時間欠運転
J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非運動
	開放	加湿器ドレンポンプ運動

J10, J11：リモコン風量表示の切換　×：開放　○：短絡

記号	設定1	設定2	設定3
J10	○	×	○
J11	○	○	×
風量切換設定	3速(急／強／弱)	2速(急／弱)	1速(風量調整無効)

※風量切換設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。

注）機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能

注(1)　2ｍより長くしないでください。

●XR1~4はDC12Vリレー（オムロンLY2F相当品）
●XR5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー（オムロン製MY2F相当品）
●CnTコネクター（現地側）メーカー、形式

コネクター	モレックス	5264-06
端　子	モレックス	5263T

●機　能

出力1	エアコン運転出力（エアコンON時XR1＝ON）	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力（サーモON時XR3＝ON）	
出力4	エアコン点検出力（エアコン点検時XR4＝ON）	
入力5	出荷時	XR5 OFF⇒ON　エアコンON
		XR5 ON⇒OFF　エアコンOFF
	現地切換(SW5のNo.3をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

●冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）の据付説明書をご覧ください。
●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。
1.ドレンポンプ強制運転の開始
①試運転ボタンを3秒以上押します。
「項目⇕で選択」→「セットで決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
②「冷房試運転▼」の表示の時に、▼ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転⇕」を表示させます。
③セットボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示：「ドレンポンプ運転」→「セットで停止」
2.ドレンポンプ運転の解除
④セットボタン又は、運転／停止ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

⑦ 試　運　転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

□ 電源電圧は本体表示と同じですか。
□ 室外機側でアース工事はされていますか。
□ 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
□ 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。